

インフォメーションディスプレイ Vol.28



所在地：千葉県成田市 写真提供：成田国際空港株式会社



成田国際空港株式会社 空港運用本部
施設保全部 情報通信グループ

副主管
貝塚 健浩 様 飯田 昌宏 様

成田国際空港株式会社 様

日本と世界を結ぶ成田国際空港は、アジアのゲートウェイとして、また人・文化・経済が交流するグローバルハブとして重要な役割を担っています。2008年は開港30周年。さらなる飛躍へ向け、ファシリティの整備、サービスの拡充を進められています。

必要なとき、必要な場所に、必要な情報を。 応用自在のインフォメーションが実現しました。

PN-G655
4台導入

(第1旅客ターミナルビル×2)
(第2旅客ターミナルビル×2)

1日に約97,000人に及ぶお客様と膨大な量の情報が行き交う、成田国際空港の旅客ターミナル。ここに新たに登場した“マルチメディアディスプレイ(以下MMD)”には、二つの顔があります。通常は、機内持ち込み検査などのセキュリティ情報、空港施設のリニューアルやイベントのお知らせなどをアナウンス。そして、ときにはフライトインフォメーションに早変わり。この“フライト情報”に対応したことは、MMDの最大の特長です。

「MMDはフライトインフォメーションシステム(FIS)と連携しており、正確なフライト情報をリアルタイムに表示することができます。非常時には便ごとに詳細なご案内をすることも可能。ホワイトボードでは伝えきれない、生の情報をご提供できます。」

フライト情報はお客様にとって重要な情報。メインボードをはじめ随所に表示され、刻々と更新されています。そうした万全の設備に加えさらなる備えとして導入されたMMDは、安心・快適な旅をサポートする新しいカタチのお客様サービスです。



第1旅客ターミナル北ウィング4階
出発ロビー。インフォメーション
カウンター横とメインボード下の
2カ所で「PN-G655」が鮮やかな
画像を映し出している。



導入時の評価ポイント

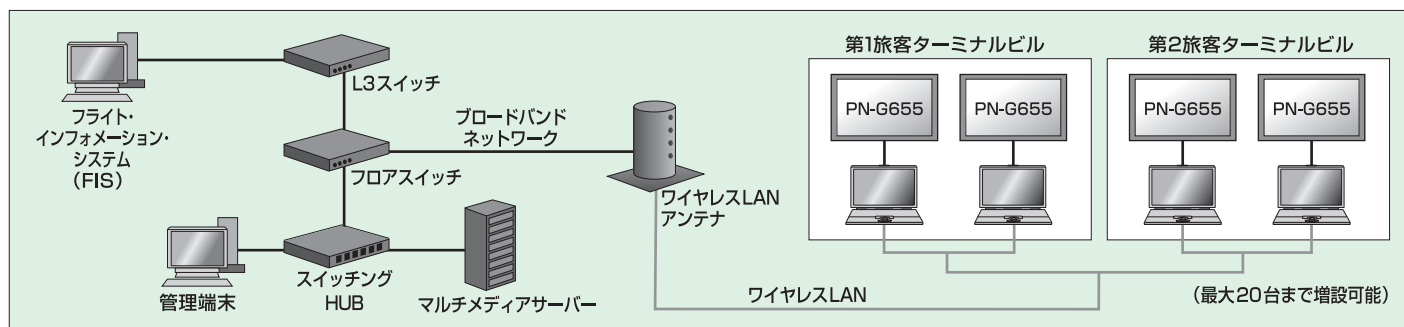
■ 多数の方が同時に見ることができる
■ 大空間に相応しい65型の大画面

■ 反射や映り込みが少ない
■ ASV低反射ブラックTFT液晶

■ どんな角度からも見やすい
■ 上下左右176°の広視野角

■ 長時間の稼働にも耐えられる
■ 業務用途に適したディスプレイ

■ システム概略図



導入の経緯

大画面にして可搬型。
難しい条件をクリアした『PN-G655』。

出発ロビーのような大空間で使用するディスプレイに求められるのは、第一に“大きさ”です。

「フライト情報は日本語・英語を併記して表示することもできます。これは65型ワイド画面だからできること。縦・横のスクロールもできますので、既設の大型設備と比べても遜色ない情報量が確保できます。」

さらに、視野角の広さ、長時間使用に対する耐久性などを検討し、ターミナルという場所柄に相応しいスペックを備えた『PN-G655』を採用されました。そして、もう

一つのこだわりが“移動できる”こと。

「ワイヤレスLANと可搬型の表示端末を組み合わせれば、お客様がいま知りたいことを必要な場所でお伝えすることができます。運びやすさに配慮し、ディスプレイとノートパソコンをカバーする筐体はキャスター付きに。強靭さも保ちながら、エレベーターに乗せて移動できるサイズにまとめました。」

その洗練されたデザインは、ただの掲示板とは違う存在感を放ち、お客様の目を引きつけています。



欠航、遅延などの非常時情報を合わせて表示することもできる。

導入後の感想

応用力の高さが
確かな評価を生んでいます。

「MMDは、すでに社内ではインフォメーションシステムとして一定の評価を受けています。弊社からのお知らせは、期間限定の情報を入れ替えながら常時10コンテンツほどを用意していますが、社内の各セクションから流したい情報を提案されることもあります。」

空港には空港設備のみならず、ショップ・レストランをはじめ、バラエティ豊かな

施設、さまざまなサービスがそろっています。言ってみれば、旅の途中で立ち寄る街のようなもの。お客様にお伝えしたい情報は数限りなくあります。それを、それぞれの場所に応じてタイムリーに伝える格好の手段としてMMDが利用されています。



空港施設のリニューアルはイメージがしやすいビジュアルで、保安検査はわかりやすいイラストでご案内。

今後の展開予定

リアルタイム&ワイヤレス。
強みを最大限に活かしたい。

現在、端末ディスプレイは第1、第2旅客ターミナルビルに各2台。今後は増設を検討したいとのこと。

「ワイヤレスLANを利用してターミナル内の情報ネットワークを充実させたいと思

います。出発ロビー、到着ロビーといった大空間だけでなく、ゲートに近い場所にももう少し小型のディスプレイを導入することも考えられます。場所が変われば、情報内容も使い方も広がっていくでしょう。」

見やすい表示、即時性、ワイヤレス。MMDは、文字情報から画像、音声、動画までマルチメディアに対応するだけでなく、時間と場所まで味方につけた、まさにマルチなシステムなのかもしれません。

●お問い合わせは

シャープ株式会社

情報通信事業本部 ビジネスソリューション事業部
電話：(03)3260-8217 / (0743)55-6373

2008年1月発行